

# 子供たちの心に 虹の架け橋。

清川虹子さん



「風邪ひいちゃってね」と入ってきた女優の清川虹子さん。今回、熊本演劇フェスティバルに、自らの劇団「虹っ子」を率いての来熊です。曇混じりの寒さの中、女性論から劇団のことまで、ホットな話が続きます。

## ●「カワイイ女と呼ばれたい」

—熊本には、よくいらっしゃるんですか。  
ええ、ずいぶん来てますよ。8年前に映画祭に来たのが初めてで、それから、ちよくちよく。お知り合いが多くなりましてね。何だかとても親しみ深くなりました。私自身、けっこうこちらで人気があるみたいだし、役柄も九州の女性が多いから。東京の神田育ちなんだけど、相通じるところがあるんでしょうね。強いように見えて優しく、そして、もろいのよ。そっくりなの。

昔のマナージャーもそうだし、お友達も九州の人が多いです。本当に、縁が深いみたいです。

—熊本の女性は「肥後猛婦」といって、代々女傑が多いんです。女性の社長さんが全国で一番多いのも熊本なんです。

—そうなんです。私の知っている方にも、熊本出身の社長さんがいらしたの。一人者でバリバリ働いていたんだけど、いくら社長でも、女はあくまで女なんだから美しくなくちゃいけないって説教したことがあったわ。その方

ものは、必ず実現できるものだということ伝えてほしい。私にだってできたんです。夢があるから毎日一生懸命できるんですよ。

「虹っ子」にしても、本当に一生懸命。お客様が喜び楽しんでくれることが、いちばんなの。お金じゃないのよ。みんな演劇が好きでたまらないのよ。だから、私たちもみんな、子供たちにも夢を届けられればいいなって——そう思っているんです。

—生懸命私の話聞いててね。化粧品も何から何まで送ってあげたりしましたね。  
—いいんです。それが似合うって言われるのは、本当に私の自慢なんです。ウツフツ……。それには、やはり健康じゃないといけない。

## ●劇団「虹っ子」

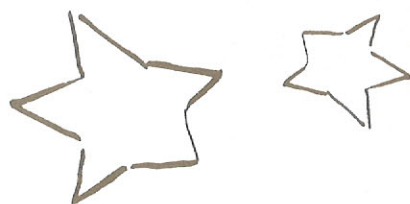
—今回は、劇団を率いて来られたわけですが、「虹っ子」というのは、どういう劇団なんですか。  
—今年の5月にできて、活動を始めたのが9月。団員は7人。何から何まで7人でやっていますよ。それで、唐

津の養護施設でやったら、すごく評判がよかったみたいで……。実は、今度初めて舞台を見るんです。時間の都合で今まで見れなくて。だからとても楽しみにしています。  
—清川さんは、出発は児童劇です。児童劇から始めて児童劇に戻ってらっしゃった。  
ええ。子供は純粋でいいわね。子供の目はゴマかせないし。特に身体の悪いお子さんなんか食い入るように見えますよ。今、あまりにも夢のない時代でしょう。だから、「虹っ子」で少しでも夢を見せてあげたい。それが私の願いなんです。  
—そして、子供の頃に描いた夢という



—やっぱり女性は美しくなければいけない。そう、お化粧ばかりじゃなくて。女の美しさというものは、年代がつくってくれると思うの。顔の表情に美しさが出てくるんです。内面から滲み出てくるのよね。

私は、今だに「清川君ほどカワイイ女はないわね」と言われるんです。うれしいわね。カワイイおばあちゃんじゃないんですよ。やっぱり生涯カワイイ女でありたいと思うし、そのためにはお洒落して女っぽくしたいですね。私ぐらいの年代になると赤や黒が似合ったり、お洒落に見えたりするのは難



星をみるように、雲をみるように。

座敷童子 三郎の物語

風の童子

風がコウゴウの吹き出せば、雨がサンサン降り出せば、オイラの出番、オイラの出番。樹人たちに、幸せを、気がすまぬ。幸せなまなざし、気がすまぬ。心か、やさしい人ならば、オイラがみえる。話ができる。オイラ、だれ？ だれ？ だれ？。オイラ、妖怪の童子。